

公開講演会

バルザックのタブラ・ラーサ

— バルザックと生理学もの

(Balzac, *tabula rasa* — Balzac et les physiologies)

(フランス語・入場無料・通訳あり)

日時：2017年9月25日（月） 18：30～20：30

場所：立教大学池袋キャンパス 5号館5301教室

講師：ナタリー・プライス (Nathalie Preiss) 氏 (ランス大学教授)

通訳：松村博史氏 (近畿大学文芸学部教授)

司会：菅谷憲興 (立教大学)

講師略歴：ナタリー・プライス教授はフランス十九世紀文学の専門家。特にバルザック研究の第一人者であり、現在は国際バルザック研究グループの会長であると同時に、この分野の最も権威ある学術誌である『バルザック年鑑 (*L'Année balzacienne*)』の責任者を務めている。また十九世紀前半の風刺的な文学ジャンルである「生理学もの」や、この時代のカリカチュアなどのいわばサブカルチャー的な文化史にも造詣が深い。バルザック、『結婚の生理学 (*Physiologie du mariage*)』その他の批評校訂版 (*Classiques Garnier*, 2009) を編集しているほか、『梨から傘へ — 政治的生理学もの (*De la poire au parapluie : Physiologies politiques*)』(2000)、『お針子 — 彼女は繕い物をする、彼女は走る (*Elle coud, elle court, la grisette!*)』(2011)、(『バルザック、室内の建築家 (*Balzac, architecte d'intérieurs*)』(2016) など著書多数。

主催：立教大学文学部文学科フランス文学専修

共催：日本バルザック研究会

問合せ先：03-3985-3392 (学部事務一課)

菅谷 憲興 noriokis@rikkyo.ne.jp